

名戸ヶ谷ビオトープだより

第37号

2009年6月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

チョー楽しかったよー

名戸ヶ谷小学校5年生児童47名がビオトープで田植え



4月28日。今年も阿部先生はじめ学年の先生方に引率された名戸小5年生児童47名による田植えが、PTA会長や広報担当、柏市役所環境保全課のみなさんの見守る中で、ビオトープ会員の指導の下に、盛大に行われました。

午前中に田圃に「線」を引き、手順書を掲示して待機。午後1時30分に5年生児童が先生方に引率されて現場に到着。ビオトープの田植え責任者から事前の注意と田植えの手順について説明を受けてから全員が4つの班に分かれて一斉に4カ所の田圃に入りました。

この日は天候にも恵まれ、暖かい日差しの中で、みんな泥んこになりながら頑張りました。今年は田植えの時期が例

年より1週間ほど早かったのも、苗が少し小振りでしたが、みんな上手に植えられました。帰りに子どもたちから「チョー楽しかったです。稲刈りも楽しみにしています」と全員から握手をもらいました。これはきっとビオトープ会員のみなさんの明日へのパワーに繋がることでしょう。みなさん、お疲れさまでした。(小笠原 智)

田植えのひとくち感想

- 田んぼの中はあたたかく、土はやわらかかったです。ボランティアの人に「うまいね」と言われてうれしかったです。(5年1組、西野佑紀)
- 生まれて初めて田植えをしました。くつ下でどろをふんで苗を植えました。はまりそうになりました。玉衣ちゃんは腰までどろにつかっていました。(5年1組、鈴木恵美)
- 田んぼに入ったら、すごく深かったのでびっくりしました。想像と全くちがいました。田植えをやっている勉強になりました。(5年2組、森 麻央)
- 苗を植えていたら、ビオトープを育てる会の人に「じょうずだね」と言われてうれしかったです。早く育たないかとわくわくしています。(5年2組、市村裕之)
- 田んぼのどろは、感触がとてもよくて気持ちよかったです。どろの上には小さな生物やヤゴ、クモなどがいて楽しかったです。(5年2組、岡野真志)

苗の引き取り

今年も苗は「日本不耕起栽培普及会」にお願いしてありました。名戸小の希望で田植えが4月28日に早まったため、急ぎ2台の車で苗の引き取りに4月18日(土)朝の7時40分にビオトープを発ち、神埼町に向いました。小笠原、影山、藤平、久米、才川の5人です。昨年より10日早い引き取りのため、苗の育ちは3枚葉でした。うるち米用22枚、もち米15枚、の苗の他にミネラル3袋と苗の生長促進用の醗酵糠を受け取りました。引き取った苗をうるち米3番水田に小笠原さんが用意した防鳥囲いの中に置き、醗酵糠を水に溶かして苗の周囲に撒布して作業を終えました。(才川寿磨)



家族会員も参加の不耕起田植え

今年の田植えは5月6、9の2日間で行いました。5月6日。雨あがりの曇天の下、家族会員を含めた24～5人が参加しました。苗の植え方について才川氏から解説を受けてからみんな一斉に田圃に入りました。前日までに田の均し、水落としがなされ、線引きの線がよく見えたこと、等から田植え作業は例年になく順調に進み、4枚の田植えを約2時間で終わりました。もっと出来そうでしたが9日に田植えを予定している方のために3枚を残してこの日の作業を終了しました。



5月9日（土）。晴天の下、会員14～5名と田植え体験希望の親子ならびに名戸ヶ谷小ネイチャークラブ員4名（教頭、阿部先生引率）が参加して行われました。前回同様、才川氏からの事前説明を受けた後、大人、子どもが交互に並んで行うこととして、大人が子供を指導しながら進められました。初めはテンポが遅かったが、慣れるに従って順調に進み、約1時間30分で田植えを完了

しました。終了後、茶菓で児童を交えて懇談、楽しいひと時となりました。

（外川克之）



田植えを初体験して

- 畦道から落ちそうになりました。（山村和子）
- 足をとられる。短い期間にいろんなことを学んだ。すばらしい。（久米正宏）
- 足が抜けなくなって大変だったけど、またやりたいです。（諏訪 葵、中原小6年）
- すごく楽しかった。おたまじゃくしにさわった。（諏訪 遥、中原小3年）
- とても楽しかった。生きものがいっぱいなのが印象的だった。（諏訪千賀子）
- 家族で田植えができて感動した。（諏訪孝佳）
- 母は庄内米で知られる山形県。今日は農耕民族の血が騒ぎました。念願の田植えがこの年になって初めて出来て、最高でした。田圃に足入れするもどこで止まるかわからない湿地。思うように前へ進めず、足は抜くに抜けず・・・（久保田 昇子）
- 漁業の街で生まれ育った私は農作業とは縁がなく、田植えも初めて。夏の暑い盛りも草取り作業に頑張って参加して、愛しい稲たちが丈夫に大きく育つよう見守らなくては・・・（佐藤郁子）

有機肥料撒布

「うーん、まさに田舎の香水！」「名戸ヶ谷ビオトープ米」を育てるための有機肥料は昔嗅いだ匂いがしました。しかし、この香しさこそが美味しいお米を育てる肥料の証拠なんだろうな、と思うと自然と撒く手に力がこもる肥料撒布になりました。（加藤貴久）

春の生きもの観察会

5月23日（土）、春の生きもの観察会を行いました。天気もよく、大勢の子どもたちが集まりました。網を持ってビオトープの生きものを探し回ってもらいました。アメリカザリガニやカダヤシ、スジエビ、ウシガエルのオタマジャクシなどが主な収穫でしたが、カナヘビを捕まえて大喜びする子どももいました。中にはドジョウを採った子もいて、互いに自慢し合っていました。水の中の生きもの以外にもチョウ類やコウチュウ類も多く見かけましたが、子どもたちにはザリガニの方がいいようで、人の話はあまり聞いてくれませんでした。（松清知洋）



ホタルの幼虫放流



4月18日は花曇りで暖かい穏やかな日でした。定例の合同作業日で会員も従来になく大勢集まり、ミントの抜き取り、草刈、苗の引き取り、ホタルの幼虫放流、ヤナギの移植・・・と盛りだくさんの作業でした。ヘイケボタルの幼虫83匹を2月に整備した新ゾーンと旧ゾーンへ場所を変えながら放しました。昨年8月上旬に市内で採取した成虫から採卵し、それを飼育してきたものです。生存率は3%と厳しい状況ですが、順調にいけば6月下旬頃からほのかな光をチカチカと放ちます。全員交代での観察活動をも予定しており、是非とも育てて欲しいものです。幼い子ども

の頃に乱舞していたホタルを思い浮かべます。（藤平三郎）

ミント引き抜き大作戦

4月と5月の合同作業日はミントの除草作業に精を出しました。ミントは栽培種として導入されたものですが、各地で野生化しています。ビオトープでは4～5年前から急激に数を増してきて、今では最もはびこっている外来種となっています。ミントは多年草で、いったん根付くと長い根を伸ばしてそこを拠点にして増えてきます。このため、刈り取りだけでは退治できず、根から引き抜くしかありません。

3月から三か月かけてミント引き抜き大作戦を行いました。引き抜いたミントの量は大型ごみ袋20個分に相当するほどでした。ところで、作業はこれで終わったわけではありません。Bゾーン南端には引き抜きが出来なかったミントが残っています。これについては花をつける前に茎を刈り取りたいと考えています。

（佐々木光正）



名戸小2年生・4年生児童がビオトープで生きもの観察会



5月22日午前に2年生児童、26日（火）午後4年生児童によるビオトープでの生きもの観察会が行われ、佐々木・篠崎会長の二人が案内と解説役を務めました。（広報）



ビオトープの花

水面に直径1センチ以下の丸い葉がたくさん浮いています。これがウキクサです。ビオトープにはこのウキクサよりも更に一回り小さい楕円状の葉も浮いていますが、これはアオウキクサと言います。(写真の大きな葉がウキクサ、小さな葉がアオウキクサです。)

ウキクサを手にとって裏側を見てください。紫色の裏側には沢山の根が束になって垂れています。この根から水中の養分を吸い取ります。ウキクサも花をつけますが、花は滅多にしか見られず、大半は栄養繁殖という独特な方法で増えます。ウキクサの葉の裏に小さなウキクサの葉がありますが、これが栄養繁殖で増えた子供で、やがて親から離れて独立します。秋になると水底に沈んで芽を作って冬を越します。(佐々木光正)



ビオトープと私 第6回

長い東南アジアのど田舎暮らしを終えて柏に帰ってきた当座は、地元との接点は何もなく、顔見知りには向こう三軒両隣くらいしかなかった私をビオトープに誘って下さったのが隣の春山さん。もともと自然や生き物、土いじりも大好きだった私は、すぐその気になり、今日に至っている次第です。

私の人生で、田圃に入った経験は昭和20年の6月、中学2年の時、戦時下の勤労動員で10日間程新潟県の農家に泊まり込みで行かされた時だけ。その時は田植え、田の草取りの重労働に泣かされ、ただ、白いご飯を制限なしで食べられるだけが嬉しかったのを記憶しています。

ビオトープで一番先にやった仕事が水路の堀上げ。腰を手術している私にはかなりキツカッタ。会員の中でも一二を争う高齢に甘えて何とかぶら下がってきましたが、何よりも感じるのが皆さんの思いやりとイタワリ。この世知辛い日本で正に希少価値に値します。これからも、仕事の後の「茶飲み話」を楽しみに、ついていく積もりです。(村川五郎)

柏市民活動フェスタ2009

今年で三回目となる市民活動フェスタ。5月17日(日)柏駅東口ダブルデッキをメイン会場に柏市民活動センターに登録している市民公益活動団体の中、83団体が参加して開催され、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会もパネル展示で参加しました。当日は残念なことに天候が悪く、当初予定していた駅前通り商店会からアミュゼ柏に掲示場所を変更しましたが、ビオトープの日頃の活動を紹介するパネルに大勢の方が足を止めて下さいました。(佐藤郁子)

カルガモ誕生

5月10日早朝、カルガモ親子が泳いでいました。子どもは12羽いました。もう畦を登ることが出来て、田圃から隣の田圃へ移動し、12日にはBゾーンのザリガニ釣り場へ移動していました(篠崎将)



編集後記

田植えを終えた田圃は一面に緑一色の稲の絨毯。その成長の早さに驚かされます。田植えに続く春の生きもの観察会も大勢の子どもたちの参加で大盛況でした。名戸ヶ谷小学校児童2年生、4年生による生きもの観察会、ネイチャークラブ児童たちによる不耕起田圃での田植え参加・・・6月2日からは一週間に亘ってそごう8階通路で名戸ヶ谷ビオトープ展も予定されており、6月7日(日)には柏市立図書館本館2階会議室に於いて市民対象の「生きものいっぱいの名戸ヶ谷ビオトープ」(講師、篠崎会長)も予定されております。忙しくなりますが、みなさんのご協力をお願いします。広報担当(春山)